

7. 地方圏

【札幌市】

- 住宅地は▲1.2%（前年▲2.4%）、商業地は▲1.1%（前年▲2.9%）となった。
- 住宅地では、人気の高い宮の森・円山地区で上昇横ばい地点が複数現れ、中央区は区全体で0.5%上昇（前年▲1.4%）となった。その他の区でも市中心部以外でも郊外部地下鉄沿線等の利便性が高い地域でのマンション用地への需要が回復し、上昇横ばい地点が複数現れた。商業地では、中央区で市中心部への利便性に優れ、特にマンション需要が強いことから上昇横ばい地点が複数現れ、区全体で0.1%上昇（前年▲3.3%）となった。

【仙台市】

- 住宅地は1.6%上昇（前年▲0.9%）、商業地は1.3%上昇（前年▲3.2%）となった。
- 住宅地では、被災地からの移転需要や都心回帰により売り物件は少ない状況にある。中古マンションも希少となっており、貸家もほぼ満室状態となっている。このような状況から全ての区で上昇となった。また、商業地についても震災直後ほどではないが店舗の売り上げは好調で、区全体で青葉区1.7%上昇（前年▲3.4%）、宮城野区2.3%上昇（前年▲3.0%）、若林区1.0%上昇（前年▲2.1%）となった。

【金沢市】

- 住宅地は▲2.3%（前年▲3.4%）、商業地は▲2.8%（前年▲3.7%）となった。
- 住宅地では、平成27年春に北陸新幹線の延伸開業が予定され、これに伴う「金沢駅西広場再整備事業」の進捗による住環境の向上や「金沢市まちなか定住促進事業」効果もあり、都心回帰の傾向が見られ利便性に優れた地域で上昇横ばい地点が複数現れた。商業地についても北陸新幹線の延伸を控え、県内外の投資も見られなど事務所、店舗ともに需要強く金沢駅周辺で上昇横ばい地点が複数現れた。

【広島市】

- 広島市の住宅地は▲1.5%（前年▲2.1%）、商業地は▲1.6%（前年▲3.0%）となった。
- 利便性及び住環境が良好な平坦地の住宅地域で需要が堅調であるなか、郊外のアストラムライン沿線では一次取得者による需要が強く上昇横ばい地点が複数現れた。商業地では、中心商業地である八丁堀交差点周辺及び紙屋町交差点周辺で新たな大型商業施設の開業が相次ぎ、繁華性の向上が見られ上昇横ばい地点が複数現れた。

【福岡市】

- 住宅地は0.7%上昇（前年▲0.9%）、商業地は0.7%上昇（前年▲1.6%）となった。
- 住宅地では、都心回帰が進む中、人口増加を背景に戸建住宅、マンションとも需要が堅調で、県内外の投資による賃貸マンションの購入も活発となっており、中央区2.1%上昇（前年▲0.1%）、西区1.0%上昇（前年0.0%）、早良区2.9%上昇（前年0.2%）となった。商業地では、博多区が平成23年3月の九州新幹線の全線開業とJR博多シティの開業を受けて博多駅周辺は依然好調なことから区全体で1.8%上昇（前年0.0%）となった。また、高容積率の商業地について堅調なマンション需要を背景に、区全体で中央区0.5%上昇（前年▲2.4%）、南区0.6%上昇（前年▲1.4%）、早良区2.0%上昇（前年▲1.4%）となった。